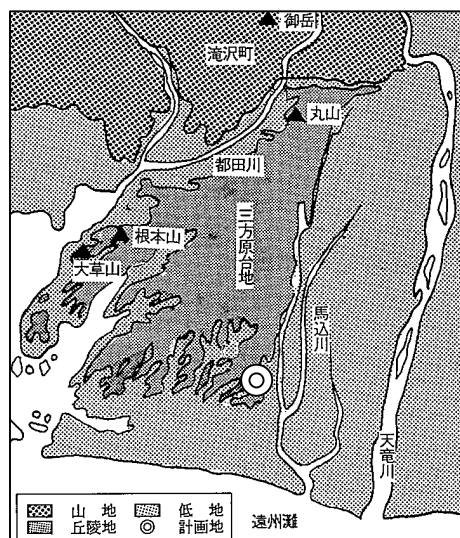


## 第2章 計画地の概要と現状

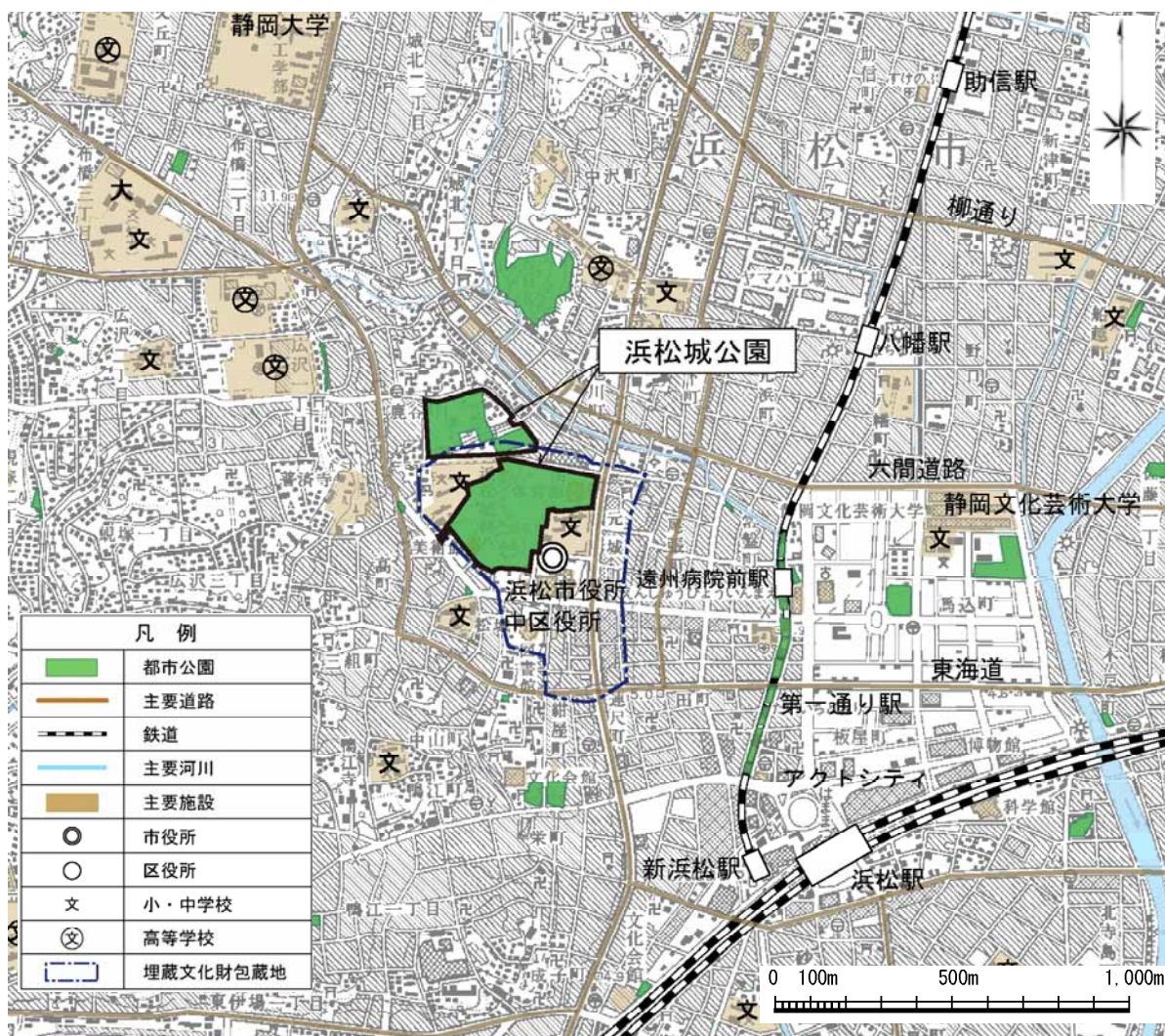
### 1 計画地の概要

#### 1-1 位置

浜松城公園は、三方原台地の斜面林と南側の市街地が交わる部分に立地し、入り組んだ地形となっている。浜松市の市街地部にあり、市の玄関口である浜松駅から北西に約 1.5km に位置するため、バス交通や徒歩によるアクセス利便がよい。また、主要道路が東西南北に通っており、浜松城公園近くの駐車場まで、車でアクセスすることもできる。



浜松市の地形



浜松城公園位置図

## 1-2 浜松城の歴史

元龜元年（1570）、徳川家康が前身である引馬城を拡張して築いた。堀尾吉晴の城主時代に石垣や天守閣が築かれたとされ、歴代城主によって改変が繰り返されてきた。明治6年（1873）の廢城令にともない、建物は解体・払い下げられた。現在は、野面積の石垣が残され歴史を今に伝えている。

歴代浜松城主

番号	城主名	在城期間		年限	石高	前封地	転封地	備考
1	徳川家康	元龜元～天正14	1570～1586	17				
城代	菅沼定政	天正14～同18	1586～1590	5				
2	堀尾帯刀吉晴	天正18～慶長4	1590～1599	11	初12万 後17万	近江佐和山	出雲松江	石垣・天守建設
3	堀尾信濃守忠氏	慶長4～慶長5	1599～1600					
4	松平左馬亮忠頼	慶長6～慶長14	1601～1609	9		美濃金山	没収	
5	水野対馬守重仲	慶長14～元和5	1609～1619	11	初2.5万 後3.5万	徳川頼宣 付家老	紀伊新宮	
6	高力攝津守忠房	元和5～寛永15	1619～1638	20	初3.1万 後3万	武藏岩槻	肥前島原	
7	松平和泉守兼寿	寛永15～正保元	1638～1644	7	3.5万	美濃岩村	上野館林	老中
8	太田備中守資宗	正保元～寛文11	1644～1671	35	3.5万	三河西尾		老中
9	太田摂津守資次	寛文11～延宝6	1671～1678		3.2万		大坂城代	
10	青山因幡守宗俊	延宝6～延宝7	1678～1679					
11	青山和泉守忠雄	延宝7～貞享2	1679～1685	25	5万	常陸笠間	丹波篠山	
12	青山下野守忠重	貞享2～元禄15	1685～1702					
13	松平伯耆守資俊	元禄15～享保8	1702～1723	28	7万	三河吉田	三河吉田	
14	松平豊後守資訓	享保8～享保14	1723～1729					
15	松平伊豆守信祝	享保14～延享元	1729～1744	21	7万	三河吉田	三河吉田	老中
16	松平伊豆守信復	延享元～寛延2	1744～1749					
17	松平豊後守資訓	寛延2～宝暦2	1749～1752	10	7万	三河吉田	丹後宮津	14と同人物
18	松平富之助資昌	宝暦2～宝暦8	1752～1758					
19	井上河内守正経	宝暦8～明和3	1758～1766					
20	井上河内守正定	明和3～天明6	1766～1786	60	6万	京都所司代	陸奥棚倉	老中
21	井上河内守正甫	天明6～文化14	1786～1817					
22	水野越前守忠邦	文化14～弘化2	1817～1845	29	初6万 後7万	肥前唐津	出羽山形	老中
23	水野金五郎忠精	弘化2～弘化2	1845～1845					
24	井上河内守正春	弘化2～弘化4	1845～1847	24	6万	上野館林	上総鶴舞	
25	井上河内守正直	弘化4～明治元	1847～1868					

### 1-3 浜松城公園整備の沿革

都市計画公園	
開設番号	1
都市計画番号	5・5・1
公園名	浜松城公園
公園種別	総合公園
都市計画決定面積	12.60ha
開設面積	10.87ha（平成22年3月31日現在）
開設年月日	昭和25年5月1日

戦前、浜松城公園付近には、個人住宅又は百軒長屋と称される住宅や、煙草工場倉庫などが建っていたが、度重なる空襲により壊滅した。戦後はバラック建築した家があったが、戦災復興土地区画整理事業（中央工区）が施行され、庁舎、公園用地として生まれ変わった。

浜松城公園は、市制40周年記念事業として昭和25年に開催された浜松子供博覧会を契機に開設された。当時は、競泳用プール、動物園等が設置されており、その後昭和33年には浜松城天守閣が復興され、翌年には当時の野面積の石垣が残る天守曲輪、本丸周辺一帯が市文化財（史跡）に指定されている。その後、浜松市のセントラルパークとしての価値を維持しながら、時代にあったかたちで施設の統廃合、整備を行い現在に至っている。

#### ■浜松城復興天守閣の概要

浜松城再建期成同盟会は、城の再建を目指して昭和31年再建浜松城の形をした募金箱2,000個をつくり、広く市民に10円抛金運動と事務所、個人の大口募金運動を展開した。集まった浄財をもとに浜松城天守閣が昭和33年4月26日に完成した。

この天守閣は、名古屋工業大学城戸久博士の設計で、日本最古の現存天守である福井県坂井市の丸岡城をモデルに復興されたと考えられる。1階、2階は郷土博物館、3階は展望台、地下室に建設工事中に発見した籠城用の井戸を保存した。建設費は、13,956,000円（セメント20トン現物支給）であった。

建物の構造規模：鉄筋コンクリート造  
瓦葺3階建（地下1階）、  
延面積311.25㎡、棟高12.99m



### 廃城後の沿革

年度	内容
明治 6年 (1873)	廃城令
明治 8年 (1875)	土地、立木払い下げ
明治44年 (1911)	市制施行
昭和20年 (1945)	浜松大空襲
昭和24年 (1949)	戦災復興都市計画 第1号公園 (10.24ha) 第2号鹿谷公園 (2.56ha) 都市計画決定
昭和25年 (1950)	50mプール完成、浜松こども博覧会 (市制40周年記念事業) 浜松城公園開設、浜松動物園開園
昭和30～32年 (1955～1957)	元城飛び込みプール、元城徒渉池児童プール、元城少年用25mプール完成 昭和32年夏季国民体育大会水泳会場となる。
昭和33年 (1958)	浜松城天守閣復興
昭和34年 (1959)	児童遊園地完成 (天守閣南側)、天守閣周辺の石垣など市指定史跡となる。
昭和38年 (1943)	浜松市体育館完成 (市制50周年記念事業)
昭和39年 (1944)	鹿谷会館 (勤労者青少年ホーム) 開館
昭和46年 (1971)	浜松市美術館開館 (市制60周年記念事業)
昭和52年 (1977)～	昭和天皇在位50周年記念公園に指定 競泳用プール・動物園を移転し、芝生広場や日本庭園を整備。その後、作左の森、展望広場、石舞台整備、せせらぎ池、文芸館、和風トイレ整備
平成 8年 (1996) 頃	鹿谷テニスコート・弓道場廃止、松韻亭整備
平成12～13年 (2000～2001)	浜松城公園サイン整備事業
平成13～14年 (2001～2002)	浜松城展示物拡充事業
平成20年 (2008)	体育館撤去

#### 1-4 史跡指定の状況

現存する石垣を含む浜松城公園区域の一部が、市文化財に指定されている。浜松城跡の指定状況を以下に示す。

名称 : 浜松城跡  
 指定 : 市指定史跡  
 指定日 : 昭和34年6月18日  
 変更日 : 昭和58年3月30日  
 (復興土地区画整理事業確定に関わる地籍変更のため)  
 指定理由 : 浜松市に関係ある城跡、及び石積築城方式に特異なものを持っている。  
 所在地 : 浜松市中区元城町100-2  
 所有者 : 浜松市  
 管理団体 : 浜松市

